

数学が苦手でも大丈夫！難しい数式は一切出てきません。

あらゆる悩みを自分で解決！  
因数分解思考

2022年5月12日発行

株式会社あさ出版(代表取締役:田賀井弘毅、所在地:東京都豊島区)は深沢真太郎著『あらゆる悩みを自分で解決!因数分解思考』を2022年5月12日(木)に刊行いたします。

売上・上司からの信頼・やる気を因数分解してください

「仕事がうまくいかない」「将来、どうすればいいかわからない」「転職できない」  
悩みをどうやって解決したらいいかわからない人に、オスズメの方法、それが“**因数分解思考**”です。  
悩みを細かく分解して、どこをどうすれば解決できるのかを具体的に考える考え方は。

本書は、パンダの惑星で数学を教えているレイレイと、「私、どうしたらいいと思う?」が口癖の主人公・美咲と一緒に悩みを解決しながら、誰でも簡単に因数分解思考を学ぶことができます。

タイトル:あらゆる悩みを自分で解決!因数分解思考

ページ数:232ページ 著者:深沢真太郎 イラスト:momochy

価格:1,540円(10%税込) 発行日:2022年5月12日

ISBN:978-4-86667-378-3

## 【目次】

- プロローグ 自分の悩みを他人に考えさせてはいけない
- 第1章 “悩みを解決できない”という悩みを解決する対話
- 第2章 因数分解思考とは何か
- 第3章 あなたの悩みは数式で表現できる
- 第4章 あなたの悩みは数値化できる
- 第5章 「因数分解」した人だけが手にするもの
- レイレイからの練習問題

## 【著者プロフィール】

深沢真太郎(ふかさわ・しんたろう)

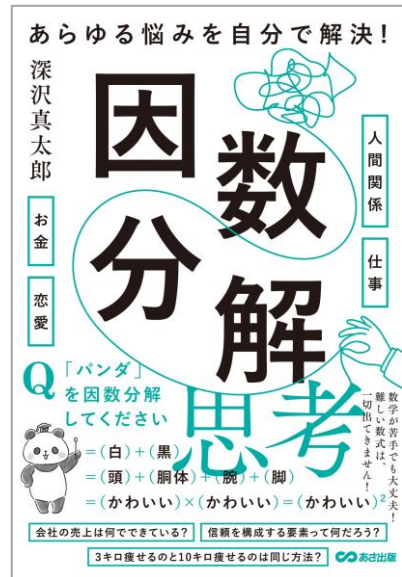
=数学×教える専門家×10年以上の会社員経験

ビジネス数学教育家/理学修士(数学)/BMコンサルティング株式会社代表取締役/一般社団法人日本ビジネス数学協会 代表理事

1975年神奈川県横浜市生まれ。日本大学大学院総合基礎科学研究科修了。数学を用いた論理的思考力をビジネスに活かす「ビジネス数学」教育の第一人者。指導者数は、延べ1万人以上にのぼる。

国内初の「ビジネス数学検定」最高ランクの1級AAA認定者であり、国内唯一のビジネス数学エグゼクティブインストラクターでもある。SMBCコンサルティングや三菱UFJなどの大手企業から、早稲田大学や産業能率大学などの教育機関における研修・講座に登壇、プロ野球球団やトップアスリートの教育研修も手がける。

2018年に「ビジネス数学インストラクター制度」を立ち上げ、指導者育成にも従事している。著作は『そもそも「論理的に考える」って何から始めればいいのか?』(日本実業出版社)、『数学的に考える力をつける本』(三笠書房)など、国内累計25万部超。テレビ番組の監修やラジオ番組のニュースコメンテーターなども務める。



# 因数分解思考とは何をする事？

数学の授業で勉強した因数分解。かけ算[×]を使って、要素をこれ以上小さくできない状態にすることです。同じような考え方で、あらゆる悩みを以下の3STEPで明らかにし、解決していきます。

## STEP1 構成する要素を明らかにする

悩みを構成する要素を細かく分解し、明らかにする



## STEP2 要素を「+-×÷」で関連づける

STEP1で明らかにした要素を下記の記号で関連づける

- 分ける機能: 分解する[×]・分類する[+]
- 比べる機能: 大小を示す[-]・割合を示す[÷]

例:「パンダ」を因数分解してください  
 (パンダ) = (かわいい) × (かわいい)  
 = (かわいい)<sup>2</sup>

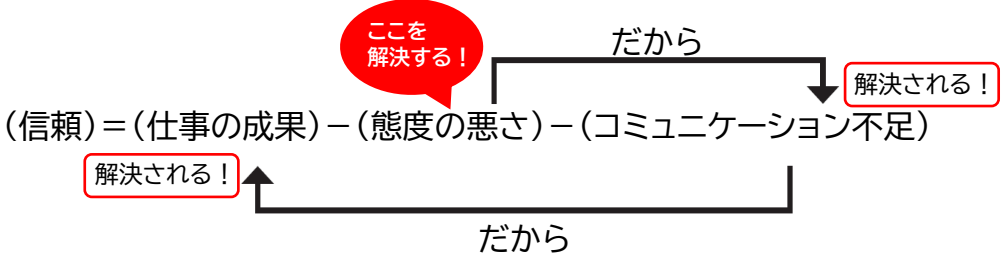
## STEP3 さらに要素を「矢印[→]」で関連づける

STEP2で関連づけた要素に対して、“ゆえに”“したがって”“だから”というように、因果関係を表現する記号として「矢印[→]」で関連づける。

# あらゆる悩みを数式で表現して解決していく

### 「上司からの信頼を得る」

$$\begin{aligned}
 (\text{信頼}) &= (\text{信頼を高めるもの}) - (\text{信頼を下げるもの}) \\
 &= (\text{仕事の成果}) - \{(\text{態度の悪さ}) + (\text{コミュニケーション不足})\} \\
 &= (\text{仕事の成果}) - (\text{態度の悪さ}) - (\text{コミュニケーション不足})
 \end{aligned}$$



### 「読書量を増やす」

$$\begin{aligned}
 (\text{読書量}) &= (\text{読書する時間}) \times (\text{読み方}) \times (\text{選び方}) \\
 &= \{(\text{プライベートの時間}) - (\text{不可欠な時間})\} \times \{(\text{流して読む}) + (\text{ちゃんと読む})\} \\
 &\quad \times \{(\text{文章量が多い}) + (\text{文章量が少ない})\}
 \end{aligned}$$

